

看護必要度「心電図モニター管理」削除、平均4.2%減へ 22年度改定短冊で簡易シミュレーション

病院向け経営支援システムを扱うメディカル・データ・ビジョン株式会社（東京都千代田区、代表取締役社長：岩崎博之）は、2022年度診療報酬改定に向けた個別改定項目、いわゆる短冊が公表されたことを受け、病院経営への影響を推計する簡易シミュレーションを実施。その結果、一般病棟用の重症度、医療・看護必要度（看護必要度）の評価が見直され、「心電図モニターの管理」が削除されることで看護必要度が平均4.2%減少することが分かりました。

このシミュレーションは、当社が診療データをお預かりしている急性期病院の中から、看護必要度分析アプリケーション「カンゴッチ+（プラス）」をご利用されていて、2021年3月から同年6月までのデータがそろっている103病院を抽出、看護必要度Ⅱで割合を算出しました。22年度改定に向けた中央社会保険医療協議会で、主なポイントだった「心電図モニターの管理」削除の影響を推計したものです。一方、増点となる「輸血や血液製剤の管理」の影響は平均0.19%増にとどまりました。

【2022年度診療報酬改定の主なポイント】

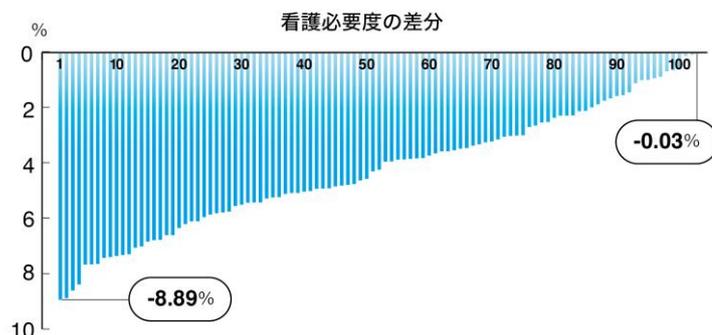
- ◆新型コロナウイルス等新興感染症への対応評価
- ◆急性期医療への手厚い評価
- ◆看護必要度評価の見直し
- ◆地域包括ケア病棟入院料の算定要件厳格化
- ◆医療職の配置体制等に対する評価の見直し
- ◆オンライン診療等のICTを活用した業務の効率化推進

看護必要度評価の「心電図モニターの管理」削除は平均4.2%減でしたが、提供している医療が異なるため、その影響は病院ごとにばらつきがありました。最大8.89%減となる病院がある半面、最小0.03%減となるなど、ほとんど影響を受けない病院もありました。

= 左下のグラフを参照 =

また全疾患コード（MDC 6別）で、この影響をみると、延べ患者の多い疾患の順で、「心不全」（11.55%減）、「誤嚥性肺炎」（11.76%減）となる一方、股関節・大腿近位の骨折（0.72%減）などとなりました。

= 下の表を参照 =



MDC6	疾患名	看護必要度 (実績値)	看護必要度 (シミュレーション値)	看護必要度の 差分
050130	心不全	37.5%	25.95%	-11.55%
010060	脳梗塞	30.96%	25.08%	-5.87%
040040	肺の悪性腫瘍	30.4%	25.55%	-4.85%
160800	股関節・大腿近位の骨折	49.08%	48.36%	-0.72%
040081	誤嚥性肺炎	33.48%	21.72%	-11.76%

■「MDV Act」メインストーリーお申込み特典

当社では病院経営改善アプリケーション「MDV Act」メインストーリー（無料）にお申込みの病院様に22年度改定による収入の変化などをシミュレーションしてご提供いたします。シミュレーションのご提供は、データ提出加算2を届け出ている病院様が対象で、改定により現在の収入にどの程度の影響が出てくるかの目安に役立てていただけます。お申込み詳細は、以下のURLもしくは、二次元コード（右横）にアクセスしてください。

https://portal-ap.mdv.co.jp/app/mdv-act/?utm_source=press&utm_medium=press&utm_campaign=k02



<本件に関するお問い合わせ先>
 メディカル・データ・ビジョン株式会社 広報：君塚・赤羽・汲田
 MAIL：pr@mdv.co.jp TEL：03-5283-6911